

平成21年度財団法人日本体育協会

クラブマネジメント指導者 海外研修事業 報告書



スポーツ振興くじ助成事業

SPORTS
for all



平成
21年度

財団法人日本体育協会

公認マネジメント指導者 海外研修事業報告書

Contents

ドイツ訪問を顧みて	2
派遣団名簿	4
派遣日程表	6
派遣先Map	8
講義概要	9
クラブ視察	43
団員レポート	53
派遣事務報告	81
フォトスナップ	87

ドイツ訪問を顧みて

団長 小倉 式郎

1989年11月9日、ベルリンの壁が突然崩壊した。その8日前11月1日ブランデンブルグの門を西側から仰ぎ見た同じ日、今度は東ベルリン駐在の知人と東側に立っていた。

1泊の約束で入った東ドイツ、外国人専用の立派なホテル、そのレストランの窓ガラスに外からへばりつく大勢の異様な眼差し、甲高い音を立てながら青白い煙をはいてお世辞にも疾走しているとは言い難い2気筒の小型乗用車。

複雑な違和感を覚えながら、壁の崩壊はあるんだろうかと会話した。知人はもちろん、滞在中利用した西側のタクシーの運転手もそんなことはあり得ないと否定した。そんな機運さえ感じさせなかった冷たくて高いベルリンの壁が、成田に帰国した日に崩壊したのである。何とも言えない思いが体中を駆け巡ったのを覚えている。

当時スポーツ界は東側の驚異的な成績に大きくリードされライバル関係にあった。この日を境に栄光の記録もドーピング疑惑に塗りつぶされ、後の東西格差はスポーツにもおよぶこととなった。

それからちょうど20年、再びドイツを訪れる機会を与えられた。

福島県がドイツとの共同事業として3回にわたって実施してきた、クラブマネジャーステップアップセミナーを継承衣替えした、平成21年度財団法人日本体育協会クラブマネジメント指導者海外研修事業である。全国各地に育成された2,900余の総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー、アシスタントマネジャーの応募者より選抜されたメンバーの団長という重責を担ってである。

心配された新型インフルエンザの罹患者も誰一人なく、研修意欲に燃えるモチベーションの高い団員が颯爽と集結、結団式・壮行会を終え無事出発できたことにまず安堵した。

日本はスポーツ振興基本計画の目標達成のための施策として、全国の各市区町村に総合型地域スポーツクラブを育成することとした。



オルケン体操クラブ役員と小倉団長

そのモデルとなっているのがスポーツ先進国ドイツのスポーツクラブの育成マネジメントである。

この事業でドイツのスポーツクラブ発展の意義や歴史、運営ノウハウ、さらには育成システムを学び検証することで、日本のスポーツクラブの発展、定着に貢献できることを期待するものである。

先進国ドイツのクラブ醸成の大きな要因の一つは何と言っても、国民のライフサイクルの違いがある。

「日曜日及び祝日は休息の日であり、精神の高揚の日として法律で保障される」とドイツ憲法の条文があり、州ごとに商店の休日営業が規制され原則禁止されている。

個人主義が強いドイツでは企業の勤務体系も時間にシビアで残業はしない。その一方で健康と生活のリズムをスポーツに求めている。

二つ目の要因として学校制度が日本とは大きく異なる。基本的に半日制であり学費は無料である。

スポーツは地域のスポーツクラブが受け皿となり、学校、保護者が連携して地域や子どもたちをサポートする体制が整っている。近年、全日制の学校が注目されているが、午後はスポーツ、音楽、自然など選択した分野において専門性を高める。

三つ目の要因は行政とのパートナーシップであ

る。ドイツにはフェライン法（クラブ法）という法律があり、ドイツオリンピックスポーツ連盟（DOSB）、州スポーツ連盟、郡市町村スポーツ連盟へと、そのスポーツ政策は明確であり一元化されている。ドイツのスポーツは州の問題と位置づけている。

ドイツは8,200万人の人口に対して9万余のクラブが存在し、2,700万人余がクラブライフを楽しむ。そこには補完の原則として「スポーツも市を必要とし、市もスポーツを必要としている」とケルンスポーツ大学主任教授のフォルカー・リットナー氏は評す。さらにライン・ノイス郡スポーツ相談課のアクセル・ベッカー氏は、国家は本来行政がやるべきことを代行している団体、つまりスポーツクラブに対して物資両面から支援をするとしている一方で、国の政策に左右されることなく、会員の意思を尊重して活動する自主自立した運営と、問題解決のできる体力を兼ね備えたクラブの責任と義務も求めている。

大陸にあっていくつもの国境を有するドイツの歴史や国民性、スポーツ文化を短期間で理解することは容易ではないが、ドイツのスポーツクラブにも共通したいくつかの課題が表面化してきている。そこには150年以上におよぶクラブの歴史が、時代の変遷と社会の変化、少子高齢化や人間関係の希薄化に大きく影響された歪であるといえるが、クラブ変革の大きなチャンスとポジティブにとらえている。

日本の場合、育成に着手してわずか15年。欧州型スポーツクラブを唱えドイツに学び設立されたクラブは約2,900、登録会員数129万人。まだまだ発展途上にありながらクラブが抱える課題はドイツとオーバーラップする。

クラブ育成のプロセスが市民レベルのドイツと行政色の強い日本の違いはあっても、国の政策や社会の変化に敏感に反応するスポーツの課題は共通する。

日本に発足した総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC全国ネットワーク）は、都道府県の連絡協議会と連携し情報交換および交流の機会を設け、それら共通課題の解消をみんなで探るとともに社会的認知度向上のための広報活動を通じ、それぞれのクラブが自主自立した安定運営と発展を得られるようサポートするものである。

全国のスポーツクラブが地域の社会資本として一つのインフラになり得ることが未来の展望を開く。

終わりに本事業挙行に際し、受入先のドイツ関係者の皆様ありがとうございました。

日本スポーツ振興センター、さらにご尽力賜った財団法人日本体育協会の関係各位に心より御礼申し上げます。

そして派遣団員のみなさん、名残惜しい表情は見えたものの最後まで一人の体調不良者もなく、ポジティブで明るく楽しい充実した研修となりました。リットナー教授からのセミナー修了証は改めてクラブマネジャーとしての自らの活動を再確認し、自覚と自信につながったことと思います。

皆様にいただいたご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

本報告書が全国のクラブ運営の一助になれば幸いです。

平成21年度

(財)日本体育協会クラブマネジメント 指導者海外研修事業 派遣団名簿



団長

おぐら しろ
小倉 式郎

所属：総合型地域スポーツクラブ全
国協議会／NPO法人ごうど
スポーツクラブ
役職：幹事長／顧問
クラブ所在地：岐阜県神戸町
URL：http://www.godo-sc.jp/
index.php
資格：公認アシスタントマネジャー



副団長

たちばな かずひこ
橘 和彦

所属：(財)福島県体育協会／
うつくしま広域
スポーツセンター
役職：事務局長／事務局長
URL：http://www.sports-fuku-
shima.or.jp



総務

かな や ひでのぶ
金谷 英信

所属：(財)日本体育協会生涯スポーツ
推進部クラブ育成課
役職：係長
URL：http://www.japan-sports.
or.jp



団員

ひらやま やす お
平山 康夫

所属：(財)福島県体育協会うつくしま
広域スポーツセンター
役職：プロジェクトマネジャー
URL：http://www.sports-fukushi-
ma.or.jp
資格：公認アシスタントマネジャー



団員

たかくら よしひろ
高倉 好博

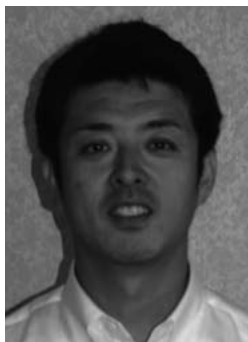
所属：ゆがわMYまいクラブ
役職：クラブマネジャー
事務局長
クラブ所在地：福島県湯川村
資格：公認アシスタントマネジャー



団員

す わ けんいち
諏訪 賢一

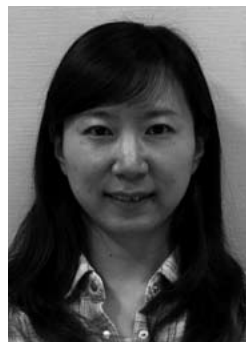
所属：スポーツクラブさしま
役職：理事長
クラブマネジャー
クラブ所在地：茨城県坂東市
URL：http://sc-sashima.com/
資格：公認クラブマネジャー



団員

かめ の よう た ろ う
亀野 陽太郎

所属：NPO法人
ニッポンランナーズ
役職：クラブマネジャー
クラブ所在地：千葉県佐倉市
URL：http://www.nipponrunners.
or.jp
資格：公認クラブマネジャー



団員

いちかわ ひろ よ
市川 裕代

所属：NPO法人
新発田市総合型地域
スポーツクラブ「とらい夢」
役職：アシスタントマネジャー
クラブ所在地：新潟県新発田市
URL：http://www.trymu.com/
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

みた ひろし
三田 博司

所属：NPO法人
朝日丘スポーツクラブ
役職：副理事長（クラブマネジャー）
クラブ所在地：愛知県豊田市
URL：<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~aspc7812/index.html>
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

きしだ みやこ
岸田 美也子

所属：たるいチャレンジクラブ Let's
役職：クラブマネジャー
クラブ所在地：岐阜県垂井町
URL：<http://www.ogaki-tv.ne.jp/~taruiletskh/>
資格：公認クラブマネジャー

**団員**

すが い しげみ
菅井 繁實

所属：NPO法人
会津スポーツクラブ
役職：事務局長
クラブマネジャー
クラブ所在地：和歌山県田辺市
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

さわだ しゅうじ
澤田 修次

所属：東部スポーツクラブ
役職：ゼネラルマネジャー
クラブ所在地：広島県福山市
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

つじ まさひこ
辻 正彦

所属：香南ししまるスポーツクラブ
役職：事務局書記
クラブ所在地：香川県高松市
URL：<http://kounan.ashita-sanuki.jp/>
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

いしばし きくこ
石橋 紀公子

所属：川添なのはなクラブ
役職：運営委員
クラブ所在地：大分県大分市
URL：<http://genki365.net/gnko02/mypage/index.php?gid=G0000148>
資格：公認アシスタントマネジャー

**団員**

いのうえ せいこ
井上 聖子

所属：佐土原スポーツクラブ
役職：理事長
クラブマネジャー
クラブ所在地：宮崎県宮崎市
URL：<http://www.sadowara-sc.com/>
資格：公認クラブマネジャー

事業協力者

黒須 充氏（福島大学）
多田 茂氏（講義通訳）
井手鉄矢氏（通訳）

平成21年度

(財)日本体育協会クラブマネジメント 指導者海外研修事業 日程表

※時間はすべて現地時間

日 時	曜日	訪問地	主な行動
10月26日	月	岸記念体育館	15:00 集合 打合せ
			17:00 結団式・壮行会
		成田	18:00 成田市へ移動
			19:30 ホリデイ・イン東武成田着
10月27日	火	フランクフルト	07:30 成田国際空港へ移動
			10:20 成田国際空港発LH711便にてフランクフルト国際空港へ
			14:05 フランクフルト国際空港着
		デュッセルドルフ	16:40 フランクフルト国際空港発LH808便にてデュッセルドルフ国際空港へ
			17:30 デュッセルドルフ国際空港着 バスにてグレーベンブロイヒへ移動
		グレーベンブロイヒ	18:40 Hotel Sonderfeld着
10月28日	水	グレーベンブロイヒ	09:00 ライン・ノイス郡庁舎 歓迎あいさつ ライン・ノイス郡スポーツ局長 Jürgen Steinmetz (ユルゲン・スタインメッツ氏) ケルンスポーツ大学主任教授 Prof. Dr. V. Rittner (フォルカー・リトナー氏)
			09:30~11:00 【講義①】「社会の発展とスポーツ」 講師: Prof. Dr. V. Rittner (フォルカー・リトナー氏)
			11:15~12:30 【講義②】「ライン・ノイス郡のスポーツ」 講師: Axel Becker (アクセル・ベッカー氏) ライン・ノイス郡スポーツ相談課
		コルシェンブロイヒ	コルシェンブロイヒへ移動
			14:00~15:30 【講義③】「自治体のスポーツ振興」 講師: Hans-Peter Walther (ハンス・ペータ・バルター氏) コルシェンブロイヒ市スポーツ課長
			15:30~17:00 【クラブ視察①】 コルシェンブロイヒ シニア世代スポーツクラブ 17:00 「ケーゲル (ドイツボーリング)」・夕食懇親会
10月29日	木	グレーベンブロイヒ	09:00~10:30 【講義④】「スポーツクラブの健康志向コース」 講師: Axel Becker (アクセル・ベッカー氏) ライン・ノイス郡スポーツ相談課
			10:45~12:30 【講義⑤】「クラブマネジメント」 講師: Martin Limbach (マーティン・リンバッハ氏) ライン・ノイス郡スポーツ相談課
			13:30~15:00 【講義⑥】「ヤン・カペレン体操クラブについて」 講師: Winfried Schmitt (ヴィンフリッド・シュミット氏) ヤン・カペレン体操クラブ会長
			15:00~16:15 【クラブ視察②】 TUSグレーベンブロイヒ
			16:30~ 【クラブ視察③】 オルケン体操クラブ 引き続き夕食懇親会

日 時	曜日	訪問地	主な行動
10月30日	金	ドルマーゲン	09：00～10：30 【クラブ視察④】 TSVバイヤードルマーゲン
			【講義⑦】「クラブと施設について、 子どもの体力向上、タレント発掘」 講師：Axel Wertz（アクセル・ヴェルツ氏） TSVバイヤードルマーゲン
			10：45～11：45 【講義⑧】「学校とスポーツクラブについて」 講師：Hans-Peter König （ハンス・ペータ・ケーニッヒ氏） TSVバイヤードルマーゲン
			11：45～12：30 昼食（TSVバイヤードルマーゲンレストランにて）
			13：00～16：00 【学校視察】 ドルマーゲンの学校 （ノルベルト・ギムナジウム） 【講義⑨・⑩】「ノルベルト・ギムナジウムについて」 （タレント発掘事業について・ 学校とスポーツクラブの連携） 講師：Lilli Zanders （リリー・ツァンダース氏） 教員 講師：Christian Hentschel （クリスチャン・ヘンシェル氏） タレント発掘事業担当
			16：15～17：00 【最終講義】 質疑応答・評価・まとめ 講師：Axel Becker（アクセル・ベッカー氏） ライン・ノイス郡スポーツ相談課
		グレーベンブロイヒ	19：00～21：00 【答礼夕食会】
10月31日	土	デュッセルドルフ	09：00 デュッセルドルフへバスで移動 RENAISSANCE DUESSELDORF HOTEL到着
			デュッセルドルフ市内見学等
		ケルン	ケルンへ鉄道で移動
			ケルン市内見学等
11月1日	日	デュッセルドルフ	07：30 デュッセルドルフ国際空港へバスで移動
			10：30 デュッセルドルフ国際空港発LH807便にてフランクフルト国際空港へ
		フランクフルト	11：25 フランクフルト国際空港到着
			13：35 フランクフルト国際空港発LH710便にて成田国際空港へ
11月2日	月	成田	08：35 成田国際空港へ到着
			解散

派遣先 MAP

Land Nordrhein-Westfalen

ドイツ連邦共和国



ノルトライン・ヴェストファーレン州





講義概要



ポスト工業化社会でのスポーツ

ポスト工業化社会でのスポーツとスポーツクラブの役割

講師：フォルカー・リットナー氏（ケルンスポーツ大学スポーツ社会学主任教授）

フォルカー・リットナー氏 あいさつ

この場所で日本の皆さんにお話しできることを大変光栄に思う。これまで幾年間、日本、台湾、中国などの様々な国々のスポーツ事情に関わってきたが、私自身にとって、アジアのスポーツ事情やドイツ、ヨーロッパに限らず、それぞれのスポーツ企画に興味を持っている。しかし、社会的にはヨーロッパとアジアには大きな違いがあり、グローバル化に伴って、アジア・ヨーロッパ共有の問題が増えている。



講師：フォルカー・リットナー氏

講義のテーマ

スポーツクラブが現代の社会的変化の中でどのような貢献ができているか。また、健康に対する意識の変化や地域住民のボランティア活動において、クラブがどのような役割を果たしているか。そして、現代のスポーツが現代社会の変化とどのような関連があり、スポーツクラブがいかに重要な働きをしているかについて話を進めたい。

1 脱工業社会とスポーツクラブ

(1) ドイツのスポーツクラブの歴史

現代社会におけるドイツのスポーツクラブは、とても長い歴史があり、中でもハンブルグには、1819年に創設されているクラブがある。このことから、この100年のスポーツクラブの変化は著しいものがあり、特にスポーツをするスタイル、服装や姿勢はとても著しく変化している。

1820年頃のドイツのスポーツクラブでは、各クラブのロゴ・クラブバッジなどが登記され、クラブの象徴とされていた。1903年創立されたノイス郡のクラブは、体操クラブから始まり、現在では5,000人の会員が活動している。これらのクラブの立ち上げは、国からの指示によるものではなく、地区・市民によって独自に設立され、国家からも市場からも独立した志をもった人が集まってグル

ープを作り、サッカー・陸上・体操などを行い、会員の自由意志に基づいて運営されているのがヨーロッパ、ドイツのスポーツクラブの特徴である。そのスポーツクラブで行われている活動は、ボランティアで行うのが基本であり、「自分たちの利益や要求や主張はクラブの中で行っていく」ということがクラブの原理である。

(2) ドイツのスポーツクラブの歴史の変化

1940年代↓

- ①服装に変化が表れはじめた。
- ②19～20世紀の頃とは違い、スポーツしやすい服装になった。

1970年代↓

- ①服装に大きな変化があり、美を追究したエロティックな服装に変わり、体をプレゼンするようになった。
- ②日本にもフィットネススタイルとして定着していると思うが、フィットネスを通じて、成功・成果を追求し健康を意識した標語も生まれてきた。

1980年代↓

- ①スポーツを楽しむ志向に変化してきた。
- ②スポーツに対する考え方、捉え方の変化がスポーツクラブにとって大きな挑戦となった。

(3) スポーツクラブと健康

スポーツクラブにおいて、「健康」ということは非常に重要であり、ガンとスポーツの関係や健康と並んで栄養、食べ物に対する意識が変わってきた。また、体型をいかに美しく見せるかなどの要求が見られはじめた。運動をする、体重を減らす、ストレスを軽減するということが、ドイツの人々の関心が高いのが現状である。自分の健康状態を知り、健康管理をすること、そしてスポーツそのものがライフスタイルとなっている。また、精神・メンタル面においても健康であることが求められている。

現代のスポーツの特徴は、健康、ダイナミック、新しいタイプのスポーツ、エロティックなスポーツが多くなっている。特に女性のスポーツ人口が増えている。また、スポーツを行う場所は体育館のみならず、町の様々な場所で行うようになっていくと同時に商業化されたスポーツが普及してきた。また、スポーツにおける新しい傾向としては、冒険的なスポーツ〔自転車・カヌー・ラフティング等〕などが見られ、ドイツの町を歩くと、壁を使い、その壁を登るスポーツなど、外で行う冒険的スポーツが盛んに行われている。また、女性だけでなく男性も体を美しく見せようとする傾向にあり、前外務大臣フィッシャー氏は、専門コーチの指導でマラソンを行い、体型改善をしたことから、スポーツに対する考え方が変化していることがいえる。

現代においては、健康に対する意識の変化により、スポーツに対する要求も変わってきている。そのような状況をふまえて、スポーツクラブとして、どのように対処していくべきかが今後の課題といえる。

(4) ドイツのスポーツ人口の変化

ドイツのスポーツ人口については、1950年から増加し、現在、クラブ会員数が2,800万人を越えていることから、スポーツクラブ組織はドイツに

おいて大きな成果をあげているといえる。では、なぜこのようにクラブ会員が増えたのか、要因は何か、を考えてみると、まず、どこでスポーツ人口が増えているのかということが重要になってくる。

ドイツでは調査結果から

- ①特定の年齢層55～64歳が増加していること
- ②女性のスポーツ人口が増加していること

があげられる。この傾向は、アジアにおいては子ども、青少年が中心であることが多く、この点がアジアとヨーロッパの大きな違いとしてあげられる。しかし、ただ単に特定の年齢層55～64歳並びに女性のスポーツ人口が増加しているのではなく、そこには社会的生活の変化を見据えたクラブの存在があるということを考えておく必要があると言える。それに関連して、最近の人口の高齢化事情をふまえると、スポーツの果たす役割が大変重要となってくる。

また、スポーツをする人口においては、長い間スポーツクラブがずっと、独占的な地位を占めていたが、最近、スポーツ人口は下記の傾向が見られるようになった。

- ①身近な友人、仲間とスポーツを楽しむ
- ②スポーツクラブで楽しむ
- ③商業的施設でのスポーツを楽しむ

このように最近では、組織ではなく個人的にスポーツを楽しむ傾向にあることや、商業的な施設でのスポーツ人口も増えているが、決してスポーツクラブの意味が失われたわけではなく、併行してスポーツクラブの存在が重要であることを確認しておくべきである。

(5) スポーツと脱工業化社会

ドイツのスポーツにおいては、競技スポーツよりも健康のためにスポーツを好んだり、スポーツを楽しんだりする傾向にある。この変化は、スポーツクラブにとって大きく重要なことである。スポーツクラブとしてどのようなスポーツを人々に

提供し、尚且つ、高齢化・女性志向を考慮したスポーツの提供を考えることは、とても重要なことである。また、どのようなスポーツが頻繁におこなわれているかについて見てみると、自由時間を利用したスポーツや健康を意識したスポーツが多く行われている傾向にあるが、これはスポーツが変化したのではなく、社会が変化したことによるものが大きい。これは、脱工業化社会のあらわれであり、スポーツの果たす役割の大きさを示していると言える。

(6) 現代社会のシステムとスポーツ関係の世界共通課題

ヨーロッパだけでなく、アメリカ、アジア、日本においても世界共通の課題として、下記の5つがあげられる。

- ①社会そのものがブロードバンド化している
- ②人々の意識が個人的意識になっている
- ③個性化に伴い、宗教や伝統が軽視される傾向にある
- ④デスクワークの増大や喫煙により、生活習慣病が増加している
- ⑤人口統計学的な問題として、少子高齢化の進行がある

(7) ドイツの特徴的疾患

ドイツの疾病死亡原因は、心臓疾患系が一番多いが、高齢化が進むと同時に、関節・神経系の病気も増え、死亡率が上がっている。いずれも、運動が少ないことが原因といわれている。日本の場合は、これらの病気で死亡率は、ドイツより低いといわれているが、アメリカに住む日本人は、これらの病気で死亡率が高いというデータがあることから、生活スタイルが影響していると考えられる。また、ドイツにおける現代社会の特徴的疾患については、高齢者に限らず、オフィスワークや運動不足から起こっている病気と考えられる。

- ①関節・背骨の痛み ②心臓・循環器系
- ③呼吸器系

そこで、ドイツの人々に、これらの病気を防ぐには、どうしたらいいか。というアンケートをとったところ

①スポーツをする ②栄養〔食事〕を考える

という答えが返ってきた。このことから、ドイツでは「健康＝スポーツ」という考え方が強いことが把握できる。

ライン・ノイス郡の特徴としては、未就学児において肥満児が多く、また、調整能力やコーディネーション能力に課題がある子どもが多くみられる結果となっている。結論としては、運動不足による疾病は成人に限ったものではなく、子どもの頃から始まっている。小さな子どもから運動能力を高め、病気予防、改善に結びつけていくことが大切である。それを解決するために、我々は幼稚園から両親と子どもと一緒に参加して楽しむことができる運動プロジェクトを実行して大きな成果を上げている。

このミーティングルームのある建物の中には、ベッカー氏研究室、ライン・ノイス郡スポーツ連盟、公共の健康課、健康担当部署、スポーツ担当部署、社会的問題を担当する部署が入っており、健康づくりのためにそれぞれが協力し課題を共有して解決のために日々協力している。

スポーツを媒体として、様々な機関が協力して問題に取り組むことができる政策やネットワークの構築、そして現代に起こっている諸問題に取り組んでいることが大切であり、事例にもなっている。

(8) ボランティア

ドイツにおけるボランティア活動は、スポーツ運動関係40%でトップである。その要因としては、ドイツのクラブは、「市民が自分たちでつくり、自分たちのために活動し、国家からの助成を獲得していくを行っている」という基本的原則があることを把握しておかなければならない。

(9) ドイツのスポーツネットワーク

「ネットワークを築く」これがドイツでは比較的新しい考え方として成果を上げている。スポーツクラブ運営の考え方としては、地域住民がどのような要求を持っているのかを把握しておくことが最初のステップであり、その要求に対する対応について様々な諸機関がネットワークを構築し、協力し合いながら対応していくことが有効であると考えられている。

長い歴史のあるクラブは、古い体質をいかに新しく変えて対応していくかが重要なプランニングとなる。ドイツが発展していくためには、スポーツがスポーツ界にとどまらず、脱工業化社会、現代社会の問題の要求に応じていくことが重要であるとされている。現代社会の抱える諸問題について調査をし、スポーツに関するデータを取り、社会の様々な領域と連携していくことが大切である。日本、欧米、ヨーロッパについても、共通した問題や要求が出てくることが想定されるが、その要求にスポーツクラブが大切な役割を果たしていくことを確信している。

(10) 最後に

社会的、政治的、経済的な面を考慮し、スポーツを提供する側として、どのようなプランを組み立てて実行していくかが非常に重要であると考えられる。例えば、高齢者の増加に対して、スポーツはどのような役割を果たせるかなど、それぞれの分野でスポーツへの関わり方を考えていく必要がある。

現代社会の中で、スポーツの持つ役割は以前にも増して高まっており、時勢に応じた対応が今後とも重要になってくる。

2 質疑応答

Q：クラブの多様化に伴うクラブのあり方について教えていただきたい

A：ドイツのクラブは、小さなグループから成立

しているが、大きく成長し成果を上げているクラブには、次のような取り組みがある

- ①有資格者が指導にあたっている
- ②ターゲット見極め
- ③会員の関心や要望に応じている
- ④会員・会員外でも地域住民に対するサービスをしている

例：ハンブルグのクラブ 1816年創設 現在7,000名の会員が加入

1982年にフィットネスを取り入れた
現在14種目から15種目のスポーツを展開している

Q：現在、日本が抱えている問題に家庭崩壊、地域住民の希薄化があるが、そのような問題についてどのように考えているか教えていただきたい。

A：ドイツ社会は、日本社会以上に個人意識が強い国である。そのような問題も見られるが、クラブとして家庭に有効なプロジェクトを現在進めているところである。

Q：私は、地元で大きい企業に勤めています。先生の講義で、クラブはネットワークづくりが大切と聞きましたが、ドイツでは大きな企業が地域のために何かしていますか。また、企業や行政にクラブが求めていることはありますか。

A：Bayerという地元製薬企業が市町村に貢献しています。クラブの組織が地域住民の自由意志に基づいて成り立っているのも、そこに住んでいる人々にとって、クラブが健康、スポーツの提供を受け取る場所となっている。クラブと政府が相互作用で保たれていることが原則となっている。

(報告：平山康夫)

ドイツスポーツのシステム ライン・ノイス郡のスポーツとスポーツ振興

講師：アクセル・ベッカー氏（ライン・ノイス郡スポーツ相談課）

アクセル・ベッカー氏 あいさつ

「これから、ライン・ノイス郡のスポーツを紹介したいと思います。初めに私はアクセル・ベッカーと申します。6才の頃からサッカーを始めクラブの中でボランティアでいろいろと活動をしてきて、ライン・ノイス郡で働くようになりました。」

1 ドイツのスポーツシステム

ライン・ノイス郡は8つの市町村からなり、南にケルン、北にデュッセルドルフが隣接し大きな都市の中にあり44万人の人口がおります。クラブ数も350を数え12万人のクラブ員が席を置いている。人口に対する割合は約27.9%である。指導者数約4500名、役員数約4,500名、マネジャー・コーチ専任の数約150名を有している。しかし、スポーツクラブを今後も運営していくにあたって、スポーツクラブ先進国といわれてきたドイツのスポーツも今、組織には属せずにスポーツを行う人が増えているなどの「クラブ離れ」といった問題に直面しているとの重要な指摘もあった。

ドイツ全体でも人口は減少傾向にあり高齢化も進んでいる。ライン・ノイス郡は急激な人口の変化は見られないが旧東ドイツでは人口の減少が西側でも減少しているところがあり少子高齢化にもなっている。社会においてもたえず変化があり、例えば労働従事者の割合でみると旧東ドイツで顕著に減少している。

今、クラブがどのような状況にいるのか、クラブとしてやっていけるのか将来に向けてやっていけるのか、などクラブとしても変化に対応していなければクラブとしての存続も難しくなる。

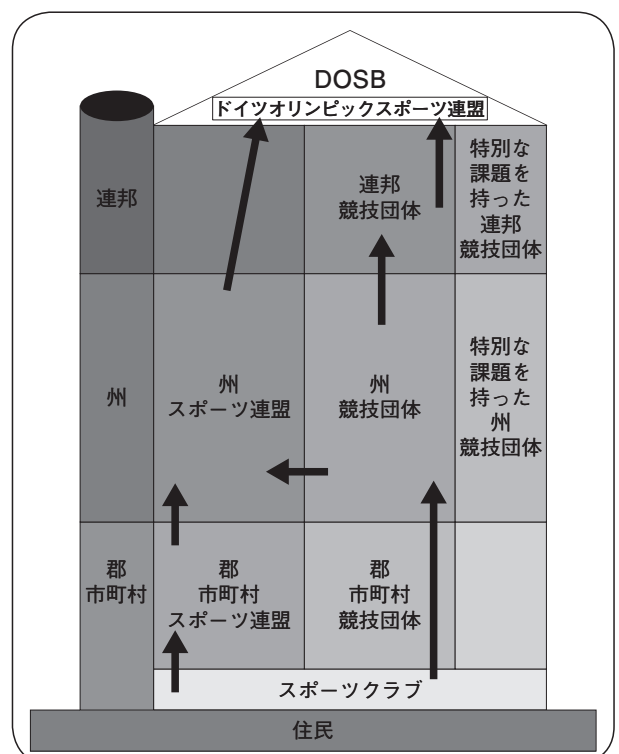
ドイツの国民スポーツは国民の3人に1人がスポーツクラブ員として定期的にスポーツを楽しむまでに発展してきました。しかし80年代の後半からその勢いにブレーキがかかり、会員数の停滞、減少を訴えるクラブが増えてきました。こうした



講師：アクセル・ベッカー氏

クラブ数の減少や会員数の停滞はクラブ運営においても大きな影響があるようである。

クラブは住民の要求にあったプログラムを提供していかなければならないし、ボランティアがクラブ運営には不可欠であり商業スポーツクラブとは異なった点であり運営の難しさがここにある。



ドイツスポーツ振興体制

2 クラブの抱える問題

- (1) ボランティア会員の獲得
- (2) 財政の問題
- (3) コーチなどの指導者の獲得
- (4) タレント養成
- (5) 会員の獲得

なぜボランティアに携わるのかの調査結果については、下記のような項目があげられる。

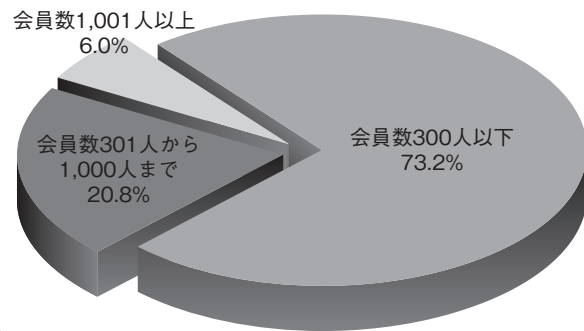
- ・ 楽しいから
- ・ 気の合った友達と会えるから
- ・ 他の人の助けとなる
- ・ 公共の福利にとって重要
- ・ 見聞を広められる
- ・ 自分の責任で決定することができる
- ・ 周りから認められる
- ・ 自己利益の追求
- ・ 自身の問題を解決できる
- ・ 職業的に利益になる

課題は多いがクラブで一番問題視されるのはボランティアとしてクラブに携わってくれる人を見つけるのが大変なことである。スポーツクラブは会員のボランティアとしての協力活動によって支えられているといっても過言ではない。

3 クラブの組織 (スポーツクラブの規模)

- (1) 会員数300人以下 73.2%
- (2) 会員数301人から1,000人まで 20.8%
- (3) 会員数1,001人以上 6.0%

現在ドイツではサービスを志向とした大きなクラブと家族的な共同体の性格を持ったクラブに二分化する傾向にある。1,000人くらいのクラブでないといけないのが実情であり、長期的にみれば小さいクラブ同士で合併して大きなクラブに発展するチャンスでもある。



スポーツクラブの規模

4 クラブ運営の3原則

(1) 自律の原理

スポーツ団体は、会員の意思に従って自律的に活動し自由意思に基づいて決定し、国家による影響を受けることなく、自分たちの指導者を選び諸問題を自分たちで解決していく。

(2) 補完の原理

国家は国家本来の使命である社会的任務をスポーツが代わって果たす上で、スポーツ自身の力が及ばないところで介入し、理念及び物資の両面でスポーツを促進するために支援していく。

(3) パートナーとしての協力の原理

すべての機関が共通の目標として目指さなければならない社会的問題の解決が問題となる場面では、各機関がパートナーとして協力していく。

5 連邦(国家)によるスポーツ奨励

- (1) 競技スポーツの奨励
 - (2) 連邦強化センター、連邦支援拠点の創出及び運営
 - (3) 連邦コーチ及び競技団体専任指導者の設置に対する財政支援
 - (4) スポーツ医学的検査の促進
- 連邦省庁間のスポーツ関連施策を連邦内務省が

行う。さらに10省がスポーツの問題について取り組んでいる。

6 州の課題・任務

- (1) スポーツ施設建設の促進及びスポーツ器具の調達
- (2) 学校スポーツ及び大学スポーツの促進
- (3) スポーツ組織の支援（ユース指導者及びコーチの研修及び報酬に対する助成）

7 州スポーツ連盟の課題・任務

- (1) 万人のためのスポーツの理念の普及実現
- (2) 生涯スポーツ及び競技スポーツの促進
- (3) コース指導者、青少年指導者、組織指導者の養成及び研修
- (4) C級コーチの基本研修の実施
- (5) 救急処置に関するクラブ会員の保険
- (6) 健康志向スポーツの促進
- (7) 広報活動

8 郡、市町村の課題・任務

- (1) スポーツ施設の維持及び建設
- (2) スポーツ施設をクラブに譲渡
- (3) スポーツ促進指針の実行

9 郡、市町村スポーツ連盟の課題・任務

- (1) 郡、市町村当局に対してクラブの利益を代表する
- (2) クラブマネージャー及びコース指導者の養成及び研修のためのコースを実施する。
- (3) スポーツを通じた青少年の保護育成
- (4) 生涯スポーツの促進

10 スポーツ施設の事情

国内の80%の施設は、国と市町村によって建設されたものであり、約40年が経過し老朽化している。それを修繕する予算が見つからないのが現実であり、そのような中でそれぞれ地元のクラブが管理をしている。

（報告：高倉好博）

講師：ハンス・ペータ・バルター氏（コルシェンブロイヒ市スポーツ課長）

コルシェンブロイヒ市スポーツ課長ハンスペータ・ヴァルター氏は、東ドイツ出身で、教師をしていた。

1988年以来西ドイツのケルンスポーツ大学で学んだ。

現在、ボランティアでスポーツの為の活動をしている。陸上クラブの事務局長、コーチもしている。（州レベルの投擲競技）行政の立場とクラブの立場といったスポーツ振興の両面が分かる方である。



講師：ハンス・ペータ・バルター氏

1 コルシェンブロイヒ市について

(1) 1975年に市町村合併があり5つの町が合併

- ①コルシェンブロイヒ
- ②クラインブロード
- ③グレーン
- ④リードベング
- ⑤シュタインホー

(2) 人口、約34,000人

※この建物には、コルシェンブロイヒ市スポーツ課が入っており、以前はハネンシュタインハウスという、この地方のビールを造っていた家族が住んでいた建物を、現在役所にし、町のスポーツクラブの支援・助成・維持などを行っている。

2 スポーツ健康課の役割

(1) 行政の役人として学校施設以外のスポーツ施設の管理

- ①スポーツ健康課
- ②施設、グラウンド等の管理
- ③スポーツ施設の管理（大・小体育館、サッカー場、屋内水泳場がある）
- ④その他

※スポーツ課には委員会があり、スポーツ施設の必要性を検討
（アンケート調査についても実施）

(2) 町民としてどのようなスポーツ施設を必要としているか

学校の施設は、少子化に伴い少なくなっている。高齢者の施設が多くなってきている。

また、商業のスタジオも進出してきている。

(3) クラブ側との協力によるスポーツ振興計画について

クラブは、色々な法律に従うが、州により異なる。例えば、ベルリン、バイエルン、ブルテンブルク州などは、法律に従わなければならない。この州には、それはないが、市にはスポーツ振興指針がある。スポーツ支援とは、義務ではなく一つの枠組みである。

クラブ側に何を要求するか。スポーツクラブにどのような助成金をあたえるか。

※クラブ会員に応じて助成金を支援

（市のスポーツ連盟上部団体へ、年間に27,000ユーロを助成し、青少年活動に振り分けられる）

※クラブは、州のスポーツ連盟に1月31日までに会員数を報告する。（子ども、青少年、成人、シニア）スポーツ連盟では、保険をかけており、何かあれば保障される。

※残り23,000ユーロは指針に基づいてそのお金の配分が決まる。例えば、テニスクラブは、コート1面に対して250ユーロのお金が配分され

る。この町には、31面あり、8,000ユーロ位のお金が配分されている。

※町のスポーツ連盟の事務管理費に2,500ユーロ、さらに、1,500ユーロは、市のスポーツ功労者に対してのスポーツ功労賞に利用される。

※各市とも財政が厳しいため、スポーツ支援をするために政治家は戦わなければならない。なぜ厳しい状況にかかわらずスポーツに力を注ぐのか？ それは、スポーツが、子ども、高齢者にとって重要であるから（コルシェンブロイヒにあるクラブには、400人の子どもたちが、毎週活動している。そのため、子どもの関係する犯罪は少ない）。

3 クラブについて

(1) 39のスポーツクラブがある

- | | |
|------------------|---------|
| ・ 1,000人以上のクラブ | → 4クラブ |
| ・ 300～1,000人のクラブ | → 7クラブ |
| ・ 100人以下のクラブ | → 28クラブ |

(2) 会員13,000人

(3) 会費 月5ユーロ～10ユーロ

(4) 7人いればクラブができる。

(5) 運営人数が、3人以下になると解散させられる（法律がある）。

(6) 情報発信の手段について

クラブの定期総会がある

①クラブの創立の記録

②定款を決める（定款に則って活動する）

③クラブとして何をしたいか決める

※法律の中に規定がある（地域、宗教、教会など）

※クラブは、様々なスポーツを提供している（サッカー、釣などを含めて19の種目）。

人気は、サッカー、ハンドボール、陸上で、市のハンドボールチームは、小さな市だが、ドイツ全体の2部リーグでプレーしているプロチームである。このようなチームを維持するには、

年間に50万ユーロ程度必要である。

※ドイツでは、サッカー、ハンドボール、卓球、F1は料金を払って見る。

4 コルシェンブロイヒのスポーツ振興のために

毎年、スポーツ功労者にメダルを与えている。（スポーツガーラといっている）また、その表彰の時には素晴らしいプログラムが用意され、大きな業績を上げた選手が招待される。

また、10kmのロードレースも開催される。

※去年は、150名位が表彰され、槍投げの世界選手権優勝選手が招待された。

※ロードレース参加者は、3,000人で、60%が町の住民である。それ以外に周囲の町からの参加者があり、女性40人、50～60人の男性が招待選手として参加する。この事業を開催するために、会社組織を作って事業を委託している。

(1) 支援内容

①市にとっては、良いコーチを確保するのが大切で、9,000ユーロは様々なコーチを養成するために充てる。

②コーチの資格を持った人には、市が100%支払う。

③スポーツ用具の支援（25%町がもつ）

④市のスポーツ選手が重要な大会に出るときの助成（交通費、宿泊費、食事代の75%）

⑤特別なスポーツ大会助成（地域を越えて重要な意味を持つ大会）

⑥クラブが持つ施設の改修の支援

5 なぜ自治体はクラブに支援をし、どのようなときに支援をするのか

スポーツクラブが、ある一定の規定を満たしていることに対して、その事業に意味があるという証明により助成される。（通常、どの様な営業行為も税を払うため、利益を目的とせず、公共の利益

に対してのものであると証明しなくてはならない。)

(1) 助成条件

・公共の利益であることを証明する内容

- ①この行為は、利益、営業行為ではないという証明を税務署からもらう。
- ②クラブ事務所が、コルシェンブロイヒ市になければならない。
- ③コルシェンブロイヒという名前が、クラブ名になければならない。

④スポーツクラブの会員は、州のスポーツ連盟の会員である。

・スポーツクラブ (SV) →市 (SSV) →郡 (KSB) →州 (LSB)

※ 以上の条件を理論的に満たしていれば会員はお金を払わずにスポーツを楽しめる。

・スポーツクラブの支援のために年間約100万ユーロかかっている。

(報告：市川裕代)

講義4 スポーツクラブの健康志向コース

2009年
10月29日(木)
9:00~10:30

健康志向のプログラム・コース提供について

講師：アクセル・ベッカー氏（ライン・ノイス郡スポーツ相談課）

1 現代における『健康』の意味

(1) 健康とは何か・健康は生活する為の基本的な資源となっている素である。

現在、少子高齢化が進み、健康や年金の両方の分野で変化が見られるようになり、今後は自分自身で健康を管理していかなければならない傾向にある。健康だけが全てではないが、生活していく上では重要であるのでクラブを通して健康改善をしていくことが必要である。

(2) ライフスタイルに起因するリスク要因

- ① 栄養
- ② 運動
- ③ 享受的性向（喫煙、飲酒等）
- ④ 心理社会的アスペクト
（ストレス、憂鬱感等）

(3) まとめ：

- *「健康」の為に積極的に意識的に何かをすること。
- *自分の健康に自分で責任をとること。国家がすべきものではない。
病気療養回復に多額の金をかけるよりも、少ないお金で自分の健康をつくることが重要である。

2 健康志向スポーツの為に基本枠—法律と契約に関する基礎

(1) 予防に関する規定

保険会社は予防に関する様々な取り組みを認めて支援しなければならない（心臓病、糖尿病、乳癌、呼吸困難などリハビリを必要とする人が法的に届けば治療を受けることができる）

(2) スポーツ健康に関する規定

常に挑戦する力や生活のバランスを維持する力など、健康促進の目標を高める能力を養わなければならない。



講師：アクセル・ベッカー氏

(3) まとめ

治療、リハビリ、ケアと並ぶ健康管理の4つ目の柱としての予防が大切である。

3 スポーツと健康の関連性

(1) 健康とは何か？

健康とは、日常的に出会う要求と挑戦を克服し、個人的に勝ち得た生活のバランスを維持することができる能力である。

(2) 健康促進とは何か？

健康促進とは、「人々が自分の健康状態について自分で責任を持つことが出来るようにし、そのことによって自分の健康を強化することができるようにすることを目標としたひとつのプロセスである。」オタワ協定 WHO 1986

(3) スポーツとは健康であること！ スポーツとは健康であることか？

（健康であることは病気ではないこと。そして様々な挑戦を自分で作り上げていくことが大切である）。

→スポーツは健康のどの側面に対して貢献できるか？

（スポーツから得られるもの）

- ① 身体的な機能（能力）に対しポジティブな影響がある（病気克服）。

- ②日常的な要求や挑戦をうまく克服していく力がある。
- ③常に健康に関わる意識を維持することが出来る。
- ④生活の場を自主的に形成していく力がある。
- ⑤精神的な健康状態を強化することが出来る。

(4) 健康志向のスポーツコースを提供する場合に重要となる6つの中心的な目標

- ①身体的な健康資源の強化
- ②心理社会的な健康資源の強化
- ③リスク要因の削減
- ④身体的な苦痛及び不調の克服
- ⑤スポーツ活動習慣の構築
- ⑥運動状況の改善

4 『スポーツと健康』コース

(1) クラブ全体の課題としての『健康』:

責務から療養まで

- 責 務：教育学的並びにトレーニング学/スポーツ医学的にみて時代の要求に合った形でスポーツの種目別コース、及び種目を越えたコースをクラブとして提供していく。
- 可能性：健康志向の特別なスポーツコース/運動コースを提供していく。
- 可能性：幼稚園、学校、養老施設、企業等、種々の生活世界で健康促進コースを提供していく。
- 療 養：クラブ生活全体を貫く課題としての『健康』（例えばクラブ内での講演や食事、自由時間の形成、他のコースでの健康関連テーマに対する配慮など）

まとめ：

スポーツクラブは何をする？ 今後資格を持ったコーチ指導者が多く必要。さらにクラブの特徴として健康づくりを重点として、各部署との協力を打ち出していくことが重要である。だが健康を

重点におくだけでは足りない。シニア世代クラブのように健康を促進する生活の場としてのクラブが望ましい。

(2) 予防－品質証明

州のスポーツ連盟の基準として、保険会社から助成を受ける際、クラブで健康を重点とするコースを計画し基本的な企画書を明示し、市のスポーツ連盟が認定すれば決定される。

一助成を受けることが出来るコースー

- ①リハビリのコース
(心臓・循環器など疾病患者)
- ②幼児・児童のコース
(運動に支障をきたす子供達)
- ③社会・企業のコース
(職場でのストレス回避など)
- ④高齢者のコース (健康を促進する)
- ⑤青少年のコース (健康を促進する)

(3) 現在実施しているコースの人気の割合

(ターゲットグループの配分)

第1位	大人を対象にしたコース	79.0%
第2位	子供を対象にしたコース	12.0%
第3位	高齢者を対象にしたコース	9.0%

(4) 健康を促進するコースの人気の割合

(テーマ領域の配分)

第1位	筋肉ストレッチコース	48.0%
第2位	心臓・循環器等リハビリコース	42.3%
第3位	リラックスを目的としたコース	2.3%
第4位	それ以外のコース	7.4%

(5) 予防－品質証明

(予防を考慮したコースの紹介)

- ①肥満気味のひとに関するコース
- ②運動・栄養面に関するコース
- ③水中コース
- ④健康を考慮したスポーツ種目コースー卓球

※上記は目標の方向性、促進の方向性を紹介し、

個々の状態に合わせた提供をコントロールしていかなければならない。また、自分の健康管理ばかりでなく、周囲の人の為にも何かできることはないか考えていくことが出来る。

(6) 予防－品質保証

(様々な活動の場・セッティング)

- ①企業：企業とスポーツクラブ・・職場・仕事の仕方を捉えた上での対策を
- ②学校：開かれた全日制学校におけるスポーツと健康……子供の運動強化と全体を念頭に対応する。
- ③幼稚園：(運動に重点をおく) 幼稚園におけるスポーツと健康
- ④養老施設：例えば転倒予防運動
- ⑤スポーツクラブ：スポーツクラブにおける健康増進

(7) リハビリテーションにおける目標設定

- ①身体的障害における影響を保障する
- ②身体的および精神的負荷に対する耐用性の強化
- ③自分で生活を律し、責任を持つこと
- ④事故観察と身体知覚の勧め
- ⑤健康に向けて生活態度を変更すること
- ⑥生活の質の向上

5 スポーツクラブの基本条件

(1) パートナー (中央公共団体・行政) のクラブに対する期待

- ①サービス及び活発な活動の提供
- ②質の高いコース (有資格者の確保)
- ③信頼性
- ④優れた組織性
- ⑤法的な要素の拡充 (十分な施設、コースをオーガナイズする事務局・需要があること)

※ 健康を指導することは自職場で解消することは難しい、外部のパートナーが必要であり、健康

サービスにおいて専門的要因がたくさん挙げられる病院等、プロフェッショナルとの連携を念頭においたクラブづくりが重要である。

(2) 健康志向コースがクラブにもたらすチャンス

- ①会員の維持
- ②新しいターゲットグループの獲得
- ③現代性と柔軟性をアピールできる
- ④地域の力としてのイメージが得られる
- ⑤有資格スタッフの獲得
(専門的知識を持った指導者を増やす)
- ⑥他の健康関連団体との協力が得られる
- ⑦財政手段の獲得
- ⑧将来性の計画と保証

→健康関連分野での計画に必要なもの

※人材 (特に有資格者)、構想・場所・道具を揃える事務管理組織と管理事務 (保険会社とのやりとりをする知識を持った人を育成・配置する)、マーケティングと広報活動

まとめ：

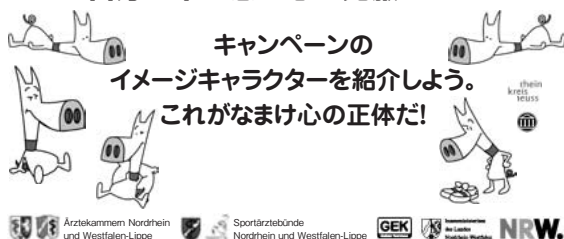
健康を意識したコースは社会的な需要の上で様々な意味・役目を担っている。このポジションを維持していくためには、更に改善と発展の努力をし続ける必要がある。それは住民サービスの向上であり、多くの準備作業である。そして、達成した際には助成金が見られるなど存続するための力になる。

6 広報キャンペーン 「自分の中の怠け心を克服しよう」

広報キャンペーンの目標

- ・健康志向コースの重要性を一般に理解を求めていく
- ・出来る限り多くの機会を利用して人々に働きかける
- ・自分の健康について人々の意識を高める

“自分の中の怠け心を克服しよう!”



コミュニケーション手段



広報キャンペーン

7 ファイナンスとマーケティング

→健康志向のスポーツコースにはいろいろな財源の可能性がある：

- ①会員の会費
- ②各コースの参加費用
- ③割当金(クラブの特殊な活動に対しての助成)
- ④寄付・スポンサー(子供の健康維持のため)
- ⑤州スポーツ連盟の助成金・行政からの助成金
- ⑥保険会社からの助成金確保
(コースによって特典を得る)

8 総括

- ①健康はますます重要性を増す社会的要因である
- ②健康志向コースは、人々の健康保持をサポートする。
- ③健康志向コースは、クラブの将来性を高めるのに貢献する。
- ④コースのプランニング、組織、実施には、体系的で品質を重視した取り組みが必要である。

(報告：澤田修次)

ボランティアクラブマネジャーの育成研修 ボランティアクラブマネジャーに期待されるもの

講師：マーティン・リンバッハ氏（ライス・ノイス郡スポーツ相談課）

本講義では、ドイツにて開催されているクラブマネジャー養成講習会のカリキュラム内容や仕組みについての説明があった。

1 活動分野1ークラブ経営

(1) クラブ／団体の発展：

クラブを将来的に発展していくためには、どういったことをしていけばいいのか、といった内容。

(2) 会員管理：

会員を管理するうえでどんなスタッフが必要か、スタッフはどんな役割を持っているのか。

(3) 子供・青少年：

青少年の活動として何をしなければならないのか、何ができるのか。13歳になるとスポーツよりも興味のあることが増えてきて、スポーツから遠ざかる傾向にある。クラブに留まって活動していくにはどういったことが必要になるのか。

(4) スポーツと健康：

どういう特色を持ったクラブを作っていくのかという点で重要なテーマとなる。

(5) 高齢者スポーツ：

高齢化が進む中で高齢者へのスポーツ振興が重要なテーマ。地域によって違ってくるので、そのターゲットを考える。

(6) スポーツの場：

スポーツを提供する場合の場所、施設等をどうして確保するか。

(7) クオリティマネジメント：

クラブとしての質を改善する。そのためにどんなことをしていけばいいのか、クオリティマネジメントが重要。

2 活動分野2ーマーケティングと広報活動

(1) 財 務：

マネジャーとしてクラブ全体の財務状況を把握する。



講師：マーティン・リンバッハ氏

(2) 会員確保：

会員を拡大するにはどういったことが必要か。

(3) 魅力的なコースの提供：

魅力的とはどういうことか、そのためにどんな態勢をつくっていけばいいのか。クラブの発展のために地域のニーズのもとに、どこをターゲットにするかを考え魅力化を図る。

(4) 競技スポーツ：

クラブのイメージとして重要。どういう形で進めていくか、その財源をどうするか、コーチをどうするか。

(5) 催し物に関するマーケティング：

催し物によってクラブをアピールし、クラブのイメージづくりに努める。

(6) 広報活動：

クラブに対していいイメージを持ってもらうためにも広報活動は大変重要で、地域の新聞やテレビの利用等スポーツ報道のあり方や工夫が重要。会員の確保に努める。

(7) インターネット：

クラブ内の雰囲気づくりや会員の確保に利用する。インターネットだけで参加する場合もある。

(8) クラブ新聞：

会員へのサービスと会員確保に大切。

3 活動分野3－ 財務、税務、法律、保険

(1) 非営利団体／税の優遇：

販売事業等のなかで課税の対象にならないようにするにはどうするか。

(2) 目標、目的、経理：

税のかからないように目標・目的を設定し、専門的に経理を研修することが重要。

(3) クラブ定款と法的問題：

クラブの法的な位置づけと、クラブに損害を与えるような行為があった場合、どうすれば法的問題がない形で対応できるか等。

(4) クラブの有報酬活動：

時間給で働いてもらうなど、報酬活動のあり方。

(5) 保 険：

様々な保険情報（ドイツでは州のスポーツ連盟が保険のリストを持っている）をどう利用するか、利用できるかの研修が大切。

4 活動分野4－組織、管理事務、 電子データ管理、新メディア

(1) クラブの組織運営：

クラブの運営をどのようにすれば効果的にできるか。どういう人をどういうポジションに据えるか。クラブを組織としてどういうふうに作っていくのか。

(2) 定例会と総会：

クラブの目標や理念を会員と共に共感し合う。

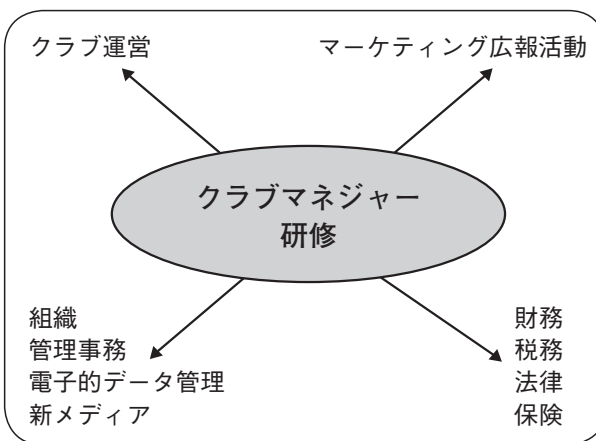
(3) プロジェクトマネジメント：

プロジェクトを実行する場合、どう進めていったらよいのか。

(4) クラブの電子データ管理：

ITをどう利用するか。コミュニケーションをとるのにEメールをどう活用するか。どういうソフトウェアを使うか、経理をうまくやるのにどういうソフトを使うか。IT関連の知識を持ったスタッ

フが必要。



5 質疑応答

Q：特殊な分野・新しいテーマ等の研修について

A：特殊な分野、財務・税務では、外部から専門家を呼んで講習を行っている。

州のスポーツ連盟の専門家によって作成された、この講習では最低これだけを満たさなければならぬと規定した指針がある。それを前提にしながら、応募してきたリストを元に参加者に応じて有益な講習となるよう資料を作成し研修を行う。

新しいテーマが出てきた場合自分たちで資料を集め、州のスポーツ連盟の許可を受けて実施する。州の指針の中に入っていれば、許可を受けなくてもよい。

Q：受講料は

A：1 テーマについて50ユーロ。受講料の90%はクラブ側が負担し、残りは個人が負担している。

Q：研修制度はいつ頃から

A：1970年代からドイツスポーツ連盟のイニシアチブで始まった。

6 レクチャーまとめ

クラブマネジャーの資格はC級ライセンスが基本となっており、上記4つの活動分野から最低8

つのテーマに関して120学習単位（1学習単位45分）を受講して資格が与えられる。上級者講習会（B級クラブマネジャー）もあるが、現在Cレベルの研修を提供している。講習会には 様々な職業の人（会社のマネジメントに携わる人、法律家、税務関係、技術者、家庭の主婦 等）が仕事をしながら参加してしている人が多く、時間の確保がむずかしく無報酬のボランティア活動となるので、スポーツ指導者に比べて参加者が少ない。

資格を持ったクラブマネジャーは、クラブにと

って重要であるが、自由意志で資格を取るので行政の方からクラブに強要することはできない。また税務・財務・広報活動といったテーマについては、その概略の知識を得ることができるよう短期コース（5学習単位）を提供している。その短期コースや、マネジャー講習会参加者同士が情報交換することを120時間の中に組み込むこともできる。

（報告：菅井繁實）

講義6 ヤン・カペレン 体操クラブについて

2009年
10月29日(木)
13:30~15:00

講師：ヴィンフリッド・シュミット氏 (ヤン・カペレン体操クラブ会長)

1 沿革

1906年設立の100年以上の歴史を持つクラブ。
すべての住民のための活動がクラブの理念として謳われている。

旧カペレン村に生まれた体操競技を主としたクラブとして設立。

1970年頃までは会員300名前後で推移してきたが、1970年代ゴールデンプランによりクラブに大きな変化が生じた。ゴールデンプランにより体育館の建設を始め、施設・システムが整備されクラブの存在に新たな基盤が生まれた。変化のポテンシャルをうまく利用し、指導者の養成から1980年クラブマネジメントが確立され、新しい種目のスポーツを取り入れて現在に至っている。

TV Jahn 06 e.V. Kapellen (Erft)



クラブエンブレム

強力なコミュニティスポーツ

100年以上に渡って
すべての住民のために活動



設立当時の写真



講師：ヴィンフリッド・シュミット氏

2 組織

現在会員1,800人

会員の割合50%は青少年・残り50%は成人

25種目のコース 全体で12,000時間のプログラムを設定

クラブ委員会（役員4名） 会長・副会長・事務局
局長・財務委員長により構成

運営委員会（22名）

25種目のコースに 代表、経理担者を配置

60人のスポーツ指導者と多くのボランティアスタッフで運営されている。

3 クラブ所有のスポーツ施設

体育館（町所有 管理運営）

フィットネスルーム・サウナ

野球場・テニスコートとクラブハウス（5面のコート）

ビーチバレーコート（自主造成 管理運営）

クラブハウス（事務室・ダンスルーム）

4 スポーツ種目の紹介

・エアロビック

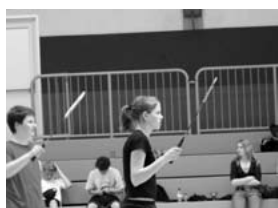
・バドミントン

（生徒の部、青年の部、高齢者の部）

- ・カペレン・タートルチーム(野球・ソフトボール)
男子野球チーム
女子ソフトボールチーム(タートルズレディーズ)
青少年野球チーム
8歳以上の子どもを対象としたTボールトレーニング(カペレン・タートルズ)
- ・障がい者スポーツ WfB WfB Hemmerdenとの連携協力
(バドミントン・バスケットボール・サッカー・屋内ホッケー・水泳・卓球)
- ・中国の治療・戦闘術(青少年・成人部
北方シャリオングループ・太極拳／チゴン)
- ・フィットネス&筋力スポーツ
(16歳以上の青年及び成人)
- ・心臓スポーツ・冠状血管強化グループ
(心臓スポーツ(Juechenグループ)・成人)
- ・柔道(5歳以上の子ども達・青少年・成人)
- ・女性のための防御術コース
(8歳、9歳コース・10歳～13歳コース)
- ・陸上(5歳以上の子ども達・青少年・成人
初心者用トレーニング・競技用トレーニング)
- ・女子ダンス
(3歳～5歳・6歳～9歳・9歳～12歳)
- ・精神運動(8歳までの子ども達)
運動教育学を終了した指導者の指導に従ってトレーニング
- ・自転車スポーツ
- ・リハビリテーションスポーツ(青少年・成人)
- ・脊柱体操
- ・リズム体操 女性
- ・ヨット(子ども達・青少年・成人)
初心者用トレーニング・研修コース・レガッタトレーニング
- ・水泳(子ども達・青少年・成人)
水泳コース・チームトレーニング・水中エアロビック
- ・サウナ
サウナ+水泳・女性サウナ・家族サウナ・水中

バドミントン

・生徒の部・青年部・高齢者の部



カペレン・タートルチーム (野球及ソフトボール)



障がい者スポーツ

WfB-Hemmerdenとの協力



- ・バドミントン
- ・バスケットボール
- ・サッカー
- ・屋内ホッケー
- ・水泳
- ・卓球

心臓スポーツ・ 冠状血管強化グループ



・Herzsport-
Gruppen
Jüchen

Erwachsene

柔道

5歳以上の子ども達、青少年、成人

- ・初心者
トレーニング
- ・一般
トレーニング
- ・競技用
トレーニング



陸上

5歳以上の子ども達、青少年、成人

- ・初心者
トレーニング
- ・一般
トレーニング
- ・競技用
トレーニング



スポーツ種目(一部抜粋)

- エアロビック
- ・ スキー（成人対象）
- ・ ダンス（成人対象）
スタンダード＆ラテン系
- ・ テニス
（子ども及び青少年の部・女子チーム・男子チーム）
5面コート（冬季シーズンは屋内トレーニング）
- ・ 体操 体操競技と器械体操（6歳以上の子ども達）
一般体操クラブ 楽しみを目的としたプレー・
競技グループ
- ・ 体操 母と子のための体操（2歳児までの子ども達・2歳から5歳までの子ども達）
- ・ 子ども体操（5歳以上の子ども達）
- ・ バレーボール＆ビーチバレーボール
- ・ ウオーキング＆体操

- ・ 社会状況の変化によって、加入者が減りつつある。社会の変化そのものをクラブが変えることはできないが、その変化に対してクラブとして何ができるかを常に考えて活動していくことが必要である。

（報告：諏訪賢一）

5 財 務

年間予算35万ユーロ（約4,000万円）
 助成金の割合50%（ライン・ノイス郡より）
 管理部門の費用は固定費としてクラブ全体の運営
 経費 固定費の割合は12%
 経理担当者のポジションはボランティア
 22の各部門に経理担当者がある
 各部門の黒字部分は各部門の強化費となる

6 広報活動

年4回 クラブ新聞 HPを作成

7 その他

- ・ スポーツ種目や競技レベルによってお金のかかる割合が違のでクラブ全体の利益のためにお金を使う必要があり、クラブのマネジメント力が問われる。
- ・ 子ども達の参加継続について、信頼されるプログラムの提供は重要である。
- ・ 若い人の加入が減少しているので、将来を担う人材の育成が急務である。